

# 熊本高等専門学校 令和7年度計画の点検結果

番号	熊本高等専門学校令和7年度 年度計画	令和7年度計画実績
1	<p>1. 1 教育に関する事項 (1) 入学者の確保</p> <p>①-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集パンフレットや広報誌、公式Webサイトなどを通して、本校の様子と本校6学科の特色が中学生および保護者、中学校教員に伝わるよう工夫する。</li> <li>・公式Webサイトを更新し、学校の紹介や各種イベントの案内、活躍した学生の紹介等の充実を図る。</li> <li>・オープンキャンパスや入試説明会、学校説明会では、対象者を意識した効果的な説明をおこなう。</li> <li>・中学校主催の上級学校説明会は依頼があった場合は原則としてすべて参加することとし、中学生や保護者、中学校教員に熊本高専の魅力を伝えられるよう資料等工夫する。</li> <li>・上級学校の合同説明会は費用対効果を鑑みて、効果を見極めて参加の有無を検討し、参加する場合は資料等工夫する。</li> </ul>	<p>1. 1 教育に関する事項 (1) 入学者の確保</p> <p>①-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集パンフレットなどを通して、特に令和8年度改組に関する広報を重点的におこなうとともに、本校の様子と本校6学科の特色が中学生および保護者、中学校教員に伝わるよう工夫した。</li> <li>・公式Webサイトは年度内に公開された。</li> <li>・オープンキャンパス（八代8/2、熊本8/3）、学校説明会（中学校・塾関係者対象10/7）、入試説明会（熊本10/25、八代10/26）を開催し、対象者を意識した説明をおこなった。</li> <li>・中学校主催の上級学校説明会は依頼があった場合は原則としてすべて参加することとし、八代キャンパスでは24校、熊本キャンパスでは13校の説明会に参加した。中学生等に熊本高専の魅力を伝える資料等を工夫した。</li> <li>・上級学校の合同説明会については費用対効果の観点から参加していない。</li> </ul>
2	<p>①-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生および保護者を対象に実施しているオープンキャンパスや入試説明、塾講師や中学校教員を対象とする学校説明会を開催し、きめ細かなPR活動を継続する。</li> <li>・中学校主催の状況学校説明会に参加し、中学生および保護者、中学校教員に高専の魅力を伝える。</li> <li>・オープンキャンパスでは、各キャンパスの特色を活かし、学生会と連携した個別相談や保護者会後援会の協力を得て保護者向け相談ブースの設置など可能な範囲で実施するとともに寮務委員会や両性会と連携した寮説明会の開催など熊本高専の特色をアピールする。</li> <li>・KOSENFES2025の東京と大阪両会場に対面で参加し、相談に応じるとともに熊本高専のPRに努める。</li> </ul>	<p>①-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生および保護者対象にオープンキャンパス（八代8/2、熊本8/3）と入試説明会（熊本10/25、八代10/26）、塾講師や中学校教員を対象とする学校説明会（10/7）を開催し、きめ細かなPR活動を継続した。</li> <li>・中学校主催の上級学校説明会に参加し、中学生および保護者、中学校教員に伝えた。八代キャンパスでは24校、熊本キャンパスでは13校の説明会に参加した。</li> <li>・オープンキャンパスでは、各キャンパスの特色を活かし、学生会と連携した個別相談や保護者会後援会の協力を得て保護者向け相談ブースの設置など可能な範囲で実施するとともに寮務委員会や寮学生会と連携した寮説明会の開催など熊本高専の特色をアピールした。</li> <li>・KOSENFES2025の東京（6/15）、大阪（7/13）に対面で参加し、相談に応じるとともに熊本高専のPRをおこなった。また、外部業者に動画作成を依頼し、現在「みんなの高専チャンネル」で公開されている。</li> </ul>
3	<p>①-3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おもしろサイエンス・わくわく実験講座」や出前授業を通して、小中学校のSTEAM教育支援をおこなうとともに本校の特色や魅力を発信する。</li> </ul>	<p>①-3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おもしろサイエンス・わくわく実験講座」（5/17）を開催、出前授業は年度末にかけて計12校で実施した。小中学校のSTEAM教育支援をおこなうとともに本校の特色や魅力を発信している。</li> </ul>
4	<p>②-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女子中学生の志願者増に向けた取り組みとして、オープンキャンパスや学校説明会等において女子学生による相談コーナーを設ける。</li> <li>・本校の女子学生の活躍をPRするために、パンフレットや説明会資料、Webサイト等を活用する。</li> </ul>	<p>②-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女子中学生の志願者増に向けた取り組みとして、オープンキャンパスや学校説明会等において女子学生による相談コーナーを設けた。</li> <li>・本校の女子学生の活躍をPRするために、パンフレットや説明会資料、Webサイト等を活用している。</li> </ul>

番号	熊本高等専門学校令和7年度 年度計画	令和7年度計画実績
5	<p>②-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンキャンパスの国際化に資する外国人留学生の確保に向けて以下の取り組みを行う。</li> <li>・JASSO等を活用して協定校からの外国人留学生を受け入れ、本校学生の海外活動の場を充実する。</li> <li>・ホームページの英語版コンテンツを最新情報に保ち、協定校との定期的に連絡を通じて、本校や高専の魅力を伝えていく。</li> <li>・KOSEN Global Campの実施のほか対面型国際交流やオンラインでの学生交流活動を計画実施する。</li> <li>・タイ高専からの3年次編入生への適切な指導を引き続き継続する。</li> <li>・外国人留学生の教育効果を高めるため、日本語教育をはじめとする支援を引き続き行う。</li> </ul>	<p>②-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JASSOを活用し協定校からの交換留学生として前期3名、後期8名 計11名の外国人留学生を受け入れており本校学生の学内での国際活動の場として音キャンパスの国際化に活用している。</li> <li>・ホームページの英語版コンテンツについては必要な部分を更新した。協定校とは定期的に連絡をとり本校や高専の魅力を伝えている。</li> <li>・KOSEN Global Campを8月に実施し、本校学生を含め第5ブロックから19名、運営学生として27名、計61名が対面型国際交流を実施した。オンラインでの学生交流活動も1学科が研修旅行前に実施し現地訪問時の交流を円滑に行うことができた。</li> <li>・タイ高専からの3年次編入生(R7年度は熊本キャンパスの3年から5年生に各1名ずつ受入れ)への適切な指導・サポートを継続して実施している。</li> <li>・外国人留学生の教育効果を高めるため、日本語教育をはじめとする支援を引き続き実施している。</li> </ul>
6	<p>③-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の教育にふさわしい十分な資質、意欲と能力を持った多様な入学者を確保するため、本校のアドミッションポリシー（AP）を公開周知するとともに、入試等のデータ整理・分析を実施し、APに基づいて実施される入学者選抜が適切か点検を行う。</li> <li>・また、受験生の利便性を向上させるための取り組みとして「最寄り地等受験」の他、WEB出願システムの安定的運用並びに必要なシステムの改善を進める。</li> </ul>	<p>③-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校のアドミッションポリシー（AP）を公開周知するとともに、入試等のデータ整理・分析を実施し、志望理由書を見直し、APに基づいた入学者選抜を行った。</li> <li>・「最寄り地等受験」の他、WEB出願システムの安定的運用並びに必要なシステムの改善を進めた。</li> </ul>
7	<p>③-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害がある受験生に対する配慮について、本校の対応事例をまとめ、適宜情報発信をおこなう。</li> </ul>	<p>③-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいがある受験生に対して配慮をおこなっており、相談を受けた際には適切に対応するとともに適宜情報発信をおこなっている。</li> </ul>
8	<p>(2) 教育課程の編成等</p> <p>①-1-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会・地場企業と連携しながら、半導体・デジタル人材育成を継続するとともに、アントレプレナーシップ教育およびAT(Assistive Technology)分野等での社会実装教育をさらに進める。</li> </ul>	<p>(2) 教育課程の編成等</p> <p>①-1-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本高専地域連携振興会を中心として、地元自治体・地場企業と連携しながら、半導体・デジタル人材育成を一層進めるとともに、アントレプレナーシップ教育およびAT(Assistive Technology)分野等での社会実装教育をさらに進めた。</li> </ul>
9	<p>①-1-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第5ブロック専攻科と九州大学工学部の双方の強みを融合させ、教育資源を有効に活用し、教育内容の高度化を図ることを目的とした九大工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラムを推進する。</li> </ul>	<p>①-1-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第5ブロック専攻科と九州大学工学部の双方の強みを融合させ、教育資源を有効に活用し、教育内容の高度化を図ることを目的とした九大工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラムについて推進に努めた。</li> </ul>
10	<p>①-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術者教育に強みを持つ高専と多様な教育・研究資源を持つ九州大学が連携・協力することで、多様化する課題に適切に対応する人材を育成する九大工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラムの更なる推進を図る。</li> </ul>	<p>①-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本科4年生への連携教育プログラム説明会の実施(4月)、夏季インターンシップの周知(5月)、希望学生の九大筑紫キャンパスオープンキャンパスの引率(5月)、九大教員による本科3/4年生を対象とした連携プログラム説明会の周知(6月)、九大融合基礎工学科研究室訪問の周知(9月)を行い、九大工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラムの推進を図った。その結果、今年度入試において本科5年生4名が合格、夏季インターンシップへも本科4年生11名が参加した。</li> </ul>

番号	熊本高等専門学校令和7年度 年度計画	令和7年度計画実績
11	<p>②-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が海外で活動する機会を提供する体制の充実のため、以下の取組を実施する。</li> <li>・海外渡航の安全状況に注視しつつ、安全に海外留学や海外研修ができるよう、また、将来の活動に向けて、海外企業や交流協定校を中心とした教育機関と連絡を取り合い、協定校への交換留学や研修や海外インターンシップの準備を進めていく。</li> <li>・海外協定校と協議しながら、対面型国際ワークショップやオンラインでの学生交流を計画実施する。</li> </ul>	<p>②-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外渡航の安全状況に注視しつつ、安全に海外留学や海外研修ができるよう、また、将来の活動に向けて、海外企業や交流協定校を中心とした教育機関と連絡を定期的に行っている。協定校への交換留学生1名の派遣や海外研修旅行では新たに2学科が実施した。各学科が行う研修および、本校が計画する海外派遣プログラムにより令和7年度は242名が国外へ渡航し、さらに個別の留学等では語学留学14名やサマースクール4名、学会発表5名などにより26名を派遣した。</li> <li>・海外協定校と協議しながら、対面型国際ワークショップとして高専グローバルキャンプ(学生参加者61名)などを実施し、オンラインでの学生交流も実施した。</li> </ul>
12	<p>②-2 【再掲】(番号11)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の実践的な英語力、国際コミュニケーション力の向上や、海外活動を積極的に経験し、グローバル環境下で専門知識・スキルを活用し、協働して課題解決に取り組むことができる人材を育成に取り組む。</li> <li>・海外渡航の安全状況に注視しつつ、安全に海外留学や海外研修ができるよう、また、将来の活動に向けて、海外企業や交流協定校を中心とした教育機関と連絡を取り合い、協定校への交換留学や研修や海外インターンシップの準備を進めていく。</li> <li>・海外協定校と協議しながら、対面型国際ワークショップやオンラインでの学生交流を計画実施する。</li> </ul>	<p>②-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外研修旅行(6学科とも実施)をはじめ、高専グローバルキャンプなど自主参加型の海外または国内での研修プログラムを実施し、学生のスキル向上や、国際的な場面で課題解決に取り組む人材育成を実施している。</li> </ul> <p>【再掲】(番号11)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外渡航の安全状況に注視しつつ、安全に海外留学や海外研修ができるよう、また、将来の活動に向けて、海外企業や交流協定校を中心とした教育機関と連絡を定期的に行っている。協定校への交換留学生1名の派遣や海外研修旅行では新たに2学科が実施した。各学科が行う研修および、本校が計画する海外派遣プログラムにより令和7年度は242名が国外へ渡航し、さらに個別の留学等では語学留学14名やサマースクール4名、学会発表5名などにより26名を派遣した。</li> <li>・海外協定校と協議しながら、対面型国際ワークショップとして高専グローバルキャンプ(学生参加者61名)などを実施し、オンラインでの学生交流も実施した。</li> </ul>
13	<p>③-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高専体育大会およびロボコン、プログコン、デザコン、英語ブレコン等に参加する本校の学生が大会で活躍できるように、予算面と環境面の両方において可能な限りの支援を行う。</li> </ul>	<p>③-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予算面では、学生委員会でも予算を確保し、さらに学生研究教育支援金、校長裁量経費、保護者後援会・奨学後援会の補助による支援も行った。また、ロボコンについては11月の全国大会進出が確定した時点で、さらなる支援を行った。環境面では、教職員のサポートとともに、外部コーチによる指導も実施しており、また、申請による活動時間の延長による活動支援も行った。</li> </ul>
14	<p>③-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生にボランティア活動の社会的意義を伝える機会を設け、ボランティア活動に自発的に参加するように呼び掛ける。ボランティア活動に参加した学生の活躍を学生全体に発信することで、ボランティア活動を体験した学生を増やしていく。また、一定時間参加した学生には単位を発行する等のインセンティブを与える。</li> </ul>	<p>③-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学生に、本校主催の科学イベントをはじめ、各種イベントや令和2年7月豪雨で被災した歴史的建造物の修復活動等の案内を行い、ボランティア活動への参加を奨励した。活動に参加した学生の状況をHP等で報告し、さらなる参加を促した。また、一定時間を参加した学生には、単位申請できるように整えた。</li> </ul>
15	<p>③-3 【再掲】(番号11)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際会議や海外留学、短期派遣プログラム等の学生海外活動を支援し、情報提供や活動機会の提供を行う。</li> <li>・海外渡航の安全状況に注視しつつ、安全に海外留学や海外研修ができるよう、また、将来の活動に向けて、海外企業や交流協定校を中心とした教育機関と連絡を取り合い、協定校への交換留学や研修や海外インターンシップの準備を進めていく。</li> <li>・海外協定校と協議しながら、対面型国際ワークショップやオンラインでの学生交流を計画実施する。</li> </ul>	<p>③-3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際会議や海外留学、短期派遣プログラム等の学生海外活動の情報提供を行い、「高専生渡航支援」事業等でも支援の実施をおこなった。渡航者総数268名のうち渡航支援による支援学生数94名。</li> </ul> <p>【再掲】(番号11)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外渡航の安全状況に注視しつつ、安全に海外留学や海外研修ができるよう、また、将来の活動に向けて、海外企業や交流協定校を中心とした教育機関と連絡を定期的に行っている。協定校への交換留学生1名の派遣や海外研修旅行では新たに2学科が実施した。各学科が行う研修および、本校が計画する海外派遣プログラムにより令和7年度は242名が国外へ渡航し、さらに個別の留学等では語学留学14名やサマースクール4名、学会発表5名などにより26名を派遣した。</li> <li>・海外協定校と協議しながら、対面型国際ワークショップとして高専グローバルキャンプ(学生参加者61名)などを実施し、オンラインでの学生交流も実施した。</li> </ul>

番号	熊本高等専門学校令和7年度 年度計画	令和7年度計画実績
16	<p>(3) 多様かつ優れた教員の確保</p> <p>① ・専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者（2年以内に学位取得見込の者も含む）とすることを原則とする。</p>	<p>(3) 多様かつ優れた教員の確保</p> <p>① ・令和7年の専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者（2年以内に学位取得見込の者も含む）とすることを原則として実施している。</p>
17	<p>②-1 ・企業や大学等とのクロスアポイントメント制度活用を進める。</p>	<p>②-1 ・九州大学等とのクロスアポイントメント制度を継続的に活用している。</p>
18	<p>②-2 ・民間で活躍するOB・OGの協力を得て、現場の実態を参考としながら教育内容の高度化を推進する。</p>	<p>②-2 ・半導体人材教育等において、民間で活躍するOB・OGの協力を得て、現場の実態を参考としながら教育内容高度化に努めている。</p>
19	<p>③ ・教職員の育児または介護に対応した働きやすい環境を整備するため、「柔軟な勤務時間制度」及び「同居支援プログラム」等の周知を行うとともに、相談しやすい体制を構築する。</p>	<p>③ ・令和7年度は、育児又は介護に関する相談対応を通じて制度の周知及び円滑な利用促進を図った。具体的には、機構が整備するWEBサイト「ワーク・ライフ・バランスに配慮した休暇等制度」を活用し、教職員に対して制度内容や申請方法を丁寧に説明した結果、育児休業2件、出生時育児休業3件、育児を理由とした早出勤務1件及び介護を理由とした遅出勤務1件の利用実績があった。</p>
20	<p>④ ・一般科目および専門科目において、外国人教員登用を進める。</p>	<p>④ ・一般科目の英語および専門科目の技術英語等において。外国人教員（非常勤講師）を雇用している。</p>
21	<p>⑤ ・国立高等専門学校間の教員人事交流制度活用を検討する。</p>	<p>⑤ ・国立高等専門学校間の教員人事交流制度について教員への周知等に努めている。</p>
22	<p>⑥ ・教育、学生支援、研究等の教員に求められる資質・能力を向上するためにFD活動を実施する。</p>	<p>⑥ ・教育、学生支援、研究等の教員に求められる資質・能力を向上するために機構が実施する研修への参加、並びに科研費採択のための研修、SSW等の講話・外部講師によるメンタルヘルス講演等のFD活動を実施している。</p>
23	<p>⑦ ・教育活動や生活指導などにおいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを表彰する。</p>	<p>⑦ ・教育活動や生活指導などにおいて、顕著な功績が認められる教員の表彰を継続して実施した。</p>

番号	熊本高等専門学校令和7年度 年度計画	令和7年度計画実績
24	<p>(4) 教育の質の向上及び改善</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育内容の豊富化及び教育指導の質の向上を図るため、他高専・他大学との教材の共有や、授業科目の履修・単位の互換認定を推進する。</li> <li>・モデルコアカリキュラムに基づく教育の質保証の強化を進める。</li> <li>・産業界や行政と連携し、熊本高専ファーストペンギンズプロジェクト、COMPASS5.0、GEAR5.0、COOP教育、MDASH教育など継続して取り組む。</li> <li>・アセスメントポリシーに基づき、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの検証等、教学マネジメントの実践を推進し、PDCAサイクルにより教育の改善に取り組む。</li> </ul>	<p>(4) 教育の質の向上及び改善</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他高専・他大学との教材の共有や、授業科目の履修例があり、MCCに基づく教育の質保証の強化に取り組んだ。</li> <li>・また、産業界や行政と連携し、熊本高専ファーストペンギンズプロジェクト、COMPASS5.0、GEAR5.0、COOP教育、MDASH教育など継続して取り組んだ。</li> <li>・アセスメントポリシーに基づき、3ポリシーの検証、教学マネジメントの実践を推進し、教育の改善に取り組んだ。</li> </ul>
25	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の質保証及び向上に努めるため、令和5年度に受審した高等専門学校機関別認証評価において、改善を要する点について改善を進める。</li> </ul>	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の質保証及び向上に努めるため、令和5年度に受審した高等専門学校機関別認証評価において、担当委員会が主として改善を要する点について改善を進めている。</li> </ul>
26	<p>③-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リベラルアーツ系科目を活用し、令和6年度に引き続き、地域企業、行政機関、外部エンジニア等と連携したPBLを推進・強化する。</li> <li>・地域企業との長期インターンシップや、「新・閃きイノベーション」などを通して、地域企業等が直面する課題解決を目指したPBLを行う。</li> <li>・令和6年度に引き続き、地域の自治体等と連携して、小中学生等を対象とした情報プログラミング教育を含むSTEAM教育の支援を実施する。</li> </ul>	<p>③-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リベラルアーツ系科目や専門演習科目を活用し、令和6年度に引き続き、地域企業、行政機関、地域住民、外部エンジニア等と連携したPBLを推進・強化に取り組んだ。</li> <li>・地域企業との長期インターンシップや、「新・閃きイノベーション」などを通して、地域企業等が直面する課題解決を目指したPBLを行った。</li> <li>・令和6年度に引き続き、地域の自治体等と連携して、小中学生等を対象とした情報プログラミング教育を含むSTEAM教育の支援を実施した。</li> </ul>
27	<p>③-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域企業への長期インターンシップ、共同研究や連携活動等、地域企業等との協働教育の成果を、KSPS発表会、新・閃きイノベーション発表会などで紹介する。</li> </ul>	<p>③-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域企業への長期インターンシップ、共同研究や連携活動等、地域企業等との協働教育の成果を、KSPS発表会、新・閃きイノベーション発表会などで紹介した。</li> </ul>
28	<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術科学大学との間の連携教育、共同研究、人事交流などの分野での連携を検討する。</li> </ul>	<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術科学大学との間の連携教育、共同研究、人事交流などの分野での連携について検討を継続する。</li> </ul>
29	<p>(5) 学生支援・生活支援等</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校に配置されているスクールカウンセラーおよびスクールソーシャルワーカー等との連携を密にしつつ、担任との懇談や教職員対象の研修を実施し、実効性のある研修等を行う。</li> </ul>	<p>(5) 学生支援・生活支援等</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校に配置されているスクールカウンセラー（SC）およびスクールソーシャルワーカー（SSW）等との連携を密にしつつ、担任との懇談や教職員対象の研修を実施し、実効性のある研修等を行った。SCやSSWによる面談実施後には面談報告書を共有するとともに、学生・保護者の対応を協力して行っている。また、担任とスクールカウンセラーとの懇談会を実施した。</li> </ul>
30	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種奨学金制度に係る情報が学生ならびに保護者に適切に行き渡るよう、文書や公式ホームページ、Teams、eメッセージ等を活用し、積極的に情報提供を行う。</li> </ul>	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種奨学金制度に係る情報が学生ならびに保護者に適切に行き渡るよう、文書や公式ホームページ、Teams、eメッセージ等を活用し、積極的に情報提供を行っており、多くの申請があった。</li> </ul>

番号	熊本高等専門学校令和7年度 年度計画	令和7年度計画実績
31	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生を対象として、キャリア教育(1単位) (「キャリアデザイン」(熊本C), 「進路セミナー」(八代C)) を実施する。また、「インターンシップ」(1単位) を通じて就職活動に向けた準備を行う。</li> <li>・さらに、企業の合同説明会(仕事研究セミナー(両C)) を12月に実施する。このセミナーには、2,3年生も参加する。</li> <li>・低学年からのキャリア教育や、アントレプレナーシップ教育を講演会や工場見学などを通じて実施するとともに、3年生で研修旅行を行うことで就職に向けての意識付けを行う。</li> </ul>	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生を対象として、キャリア教育(1単位) (「キャリアデザイン」(熊本C), 「進路セミナー」(八代C)) を実施している。また、「インターンシップ」(1単位) を通じて就職活動に向けた準備を行った。</li> <li>・さらに、企業の合同説明会(仕事研究セミナー(両C)) を12月に実施予定であり、このセミナーには、2,3年生も参加した。</li> <li>・低学年からのキャリア教育や、アントレプレナーシップ教育を講演会や工場見学などを通じて実施した。3年生での研修旅行では就職に向けての意識付けを行った。</li> </ul>
32	<p>1. 2 社会連携に関する事項</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「国立高専研究情報ポータル」、「リサーチマップ」等の年度更新による情報の充実、高専機構本部と連携したプレスリリースの活用により、教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を発信する。</li> </ul>	<p>1. 2 社会連携に関する事項</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員会議やTeamsにより、「国立高専研究情報ポータル」高専機構 産学連携サイトの外部資金情報の情報提供を行っている。令和7年7月14日には、科研費動画コンテンツを活用した科研費申請に係る学内講習会を実施した。「科研費獲得ウェビナーfor2026」参加支援、機構本部からの情報を周知した。また、「リサーチマップ」の随時更新を案内し、情報の充実に努めている。</li> <li>・高専機構本部と連携したプレスリリースの活用のための学内手続きの確認を行い、教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を高専を詳しく知らない人や理工系分野が専門外の人でも一読で内容が理解できるような記事の作成を該当教員に依頼し、情報を発信した (PR TIMES活用: 8件)。</li> </ul>
33	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立高専リサーチ・アドミニストレータ (KRA) や社会連携・研究支援室及び社会連携・研究委員会、国立高等専門学校間の研究ネットワーク、GEAR5.0/COMPASS5.0等を活用し、地方自治体や地域連携振興会企業との新たな共同研究・受託研究の受入れを促進する。</li> <li>・また、KRAによる工学技術分野の展示会への出展活動や効果的技術マッチングのイベント等を通じて、知的財産を活用した社会実装などアントレプレナーシップ教育の社会還元を進める。</li> </ul>	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2/28時点で、共同研究(新規・継続追加受入) 11件、受入金額8,293,543円、受託研究(新規・継続) 4件、受入額総合計(予定額含む) 29,094,279円、補助金1件、受入予定額6,654,000円、受託事業3件、受入予定額844,000円、受託試験11件、675,000円、研究助成等10件、受入金額9,895,000円、寄附金35件、16,870,531円を獲得している。</li> <li>・7/18(金)~8/26(火) 文部科学省東館2階エントランス【展示場所A】、GEAR活動ポスターを展示した。</li> <li>・8/5(火) 熊本キャンパスで、KRA及びINPITアカデミア知財支援窓口担当とGEARテーマの特許出願に関する相談、情報共有した。</li> </ul>
34	<p>③-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報道機関等と連携して、情報発信に積極的に取り組む。</li> </ul>	<p>③-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高専機構本部と連携したプレスリリースの活用のための学内手続きの確認を行い、教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を高専を詳しく知らない人や理工系分野が専門外の人でも一読で内容が理解できるような記事の作成を該当教員に依頼し、情報発信準備を進めている。</li> <li>・高専として社会にアピールしたい内容を含んだ研究発表、受賞、イベント等の情報を熊本県記者クラブ、八代市記者クラブ、各報道機関に提供するなど、情報発信に積極的に取り組んでいる。</li> </ul>

番号	熊本高等専門学校令和7年度 年度計画	令和7年度計画実績
35	③-2 ・地方自治体や教育機関と連携し、地域連携の取組や学生活動等の様々な情報をホームページや報道機関への情報提供等を通じて、社会に発信するとともに、報道内容及び報道状況を機構本部に随時報告する。	③-2 ・地方自治体や教育機関と連携し、地域連携の取組や学生活動等を積極的に行い、ホームページなどを通じて情報を発信している。  ・氷川町と本校との連携協力に関する包括協定に基づき、「氷川町有佐駅前通りまちづくり事業」(受託事業)を開始した。この事業では、昨年度、本校から提案した「有佐駅前通りのエリアコンセプトプラン」を踏まえ、新たに建設される予定の住宅地周辺のし、年度末の報告会で発表した。学生13名が参画した。 ・専門演習科目における学生作品の展示会や講評会を開催し、地域社会に対し学生の学修成果を発信している。  ・令和7年9月6日、市民講座「未来をひらく火薬の科学 ～やつしろの花火から宇宙探査まで」を開催し、約200名が参加。本校教員が、燃焼と爆発の違いや火薬の応用について、身近な例を交えた講演を行った。火薬の応用については、自動車のエアバッグといった身近な技術から、水中衝撃波や爆発圧着法などの専門的な内容まで、幅広く紹介した。  ・令和7年9月18日、農研機構九州沖縄農業研究センター研究員と交流会を実施した。実施内容については本校ホームページで情報発信を行っている。
36	④ ・教育委員会や公民館等と連携し、小中学生を対象としたSTEAM教育支援の取組等を通じ、地域の理工系人材の早期発掘及び人材育成支援を推進する。	④ ・令和7年6月から計10日間の日程で、県の小・中・高・特別支援学校の先生方を対象とするプログラミング教育研修を実施した。本研修は、熊本県との包括連携協定及び熊本県教育委員会と教育研究の振興に関する覚書に基づき、県との連携により実施されたもので、参加者は100名を超える。熊本県との連携を図りながら、今後も地域の先生方のプログラミング教育向上に貢献する。  ・地域の自治体や小中学校と連携したSTEAM教育活動を随時実施している。令和8年3月末の時点で、対外的な参加者はのべ6,900名を超える。活動については、本校ホームページを中心に情報発信している。  ・熊本市主催の小中学生向け公開講座「しごと学びWEBライブ 半導体特別授業」を令和8年1月10日に実施した。受講児童・生徒29名は、「半導体の回路を作ろう」というテーマで、回路を製作する工程の講義を受けた後、本校学生と一緒にトランジスタやLEDを使った回路を作製した。またクリーンゾーン生成装置での実験や、クリーンルーム見学など、校内の施設を見学した。本活動は本校ホームページならびに熊本市ホームページで情報発信している。
37	1. 3 国際交流等に関する事項 ①-1 ・機構本部からの要請や協力依頼について必要な支援に協力する。 ・タイ高専から受け入れ中の編入受入学生へ必要な学修支援・生活面の指導を適切に行う	1. 3 国際交流等に関する事項 ①-1 ・機構本部からの要請や協力依頼について必要な支援に求めに応じて協力している。  ・タイ高専から受け入れ中の編入受入学生へ必要な学修支援・生活面の指導を随時行っている。
38	①-2 ・該当なし	①-2 ・該当なし
39	①-3 ・KOSEN-KMITL及びKOSEN KMUTTへの教員派遣に加え、教員研修、教育課程等の点で支援・連携を継続する。	①-3 ・KOSEN-KMITL及びKOSEN KMUTTへの教員派遣への応募に加え、教員研修、教育課程等の点で支援・連携を継続している。
40	①-4 ・該当なし	①-4 ・該当なし

番号	熊本高等専門学校令和7年度 年度計画	令和7年度計画実績
41	①-5 ・エジプトにおける「KOSEN」の導入支援として、関係府省・独立行政法人国際協力機構（JICA）と連携しながら、必要に応じてJICA技術協力プロジェクトによる相手国からの要請に応じた支援を行う。	①-5 ・エジプトにおける「KOSEN」の導入支援として、関係府省・独立行政法人国際協力機構（JICA）と連携しながら、JICA技術協力プロジェクトによる相手国からの要請に応じた支援の可能性のもと、エジプトからの視察を受け入れた。
42	①-6 ・該当なし	①-6 ・該当なし
43	①-7 ・該当なし	①-7 ・該当なし
44	② ・国際交流支援室が中心となり、タイ高専等との交流・支援において機構本部への協力を行っている。	② ・国際交流支援室が中心となり、タイ高専等との交流・支援において機構本部への協力を行っている。
45	③-1 【再掲】(番号11) ・学生が海外で活動する機会を提供を充実させる取り組みを行う。  ・海外渡航の安全状況に注視しつつ、安全に海外留学や海外研修ができるよう、また、将来の活動に向けて、海外企業や交流協定校を中心とした教育機関と連絡を取り合い、協定校への交換留学や研修や海外インターンシップの準備を進めていく。  ・海外協定校と協議しながら、対面型国際ワークショップやオンラインでの学生交流を計画実施する。	③-1 ・学生が海外で活動する機会を提供を充実させる取り組みとして、6学科の海外研修旅行、2年生向け台湾研修(実施済み37名参加)を実施した。また年度末に向けても海外渡航の機会充実に取り組みシンガポールでの英語研修(本校13名+九州沖縄高専2名参加)を実施した。  【再掲】(番号11) ・海外渡航の安全状況に注視しつつ、安全に海外留学や海外研修ができるよう、また、将来の活動に向けて、海外企業や交流協定校を中心とした教育機関と連絡を定期的に行っている。協定校への交換留学生1名の派遣や海外研修旅行では新たに2学科が実施した。各学科が行う研修および、本校が計画する海外派遣プログラムにより令和7年度は242名が国外へ渡航し、さらに個別の留学等では語学留学14名やサマースクール4名、学会発表5名などにより26名を派遣した。  ・海外協定校と協議しながら、対面型国際ワークショップとして高専グローバルキャンプ(学生参加者61名)などを実施し、オンラインでの学生交流も実施した。
46	③-2 【再掲】(番号11) 学生が海外で活動する機会を提供する体制の充実のため、以下の取組を実施する。  ・海外渡航の安全状況に注視しつつ、安全に海外留学や海外研修ができるよう、また、将来の活動に向けて、海外企業や交流協定校を中心とした教育機関と連絡を取り合い、協定校への交換留学や研修や海外インターンシップの準備を進めていく。  ・海外協定校と協議しながら、対面型国際ワークショップやオンラインでの学生交流を計画実施する。	③-2 学生が海外で活動する機会を提供する体制の充実のため、以下の取組を実施した。  【再掲】(番号11) ・海外渡航の安全状況に注視しつつ、安全に海外留学や海外研修ができるよう、また、将来の活動に向けて、海外企業や交流協定校を中心とした教育機関と連絡を定期的に行っている。協定校への交換留学生1名の派遣や海外研修旅行では新たに2学科が実施した。各学科が行う研修および、本校が計画する海外派遣プログラムにより令和7年度は242名が国外へ渡航し、さらに個別の留学等では語学留学14名やサマースクール4名、学会発表5名などにより26名を派遣した。  ・海外協定校と協議しながら、対面型国際ワークショップとして高専グローバルキャンプ(学生参加者61名)などを実施し、オンラインでの学生交流も実施した。

番号	熊本高等専門学校令和7年度 年度計画	令和7年度計画実績
47	<p>③-3 【再掲】(番号11) 国際会議や海外留学、短期派遣プログラム等の学生海外活動を支援し、情報提供や活動機会の提供を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外渡航の安全状況に注視しつつ、安全に海外留学や海外研修ができるよう、また、将来の活動に向けて、海外企業や交流協定校を中心とした教育機関と連絡を取り合い、協定校への交換留学や研修や海外インターンシップの準備を進めていく。</li> <li>海外協定校と協議しながら、対面型国際ワークショップやオンラインでの学生交流を計画実施する。</li> </ul>	<p>③-3 国際会議や海外留学、短期派遣プログラム等の学生海外活動を支援し、情報提供や活動機会の提供を行った。</p> <p>【再掲】(番号11) ・海外渡航の安全状況に注視しつつ、安全に海外留学や海外研修ができるよう、また、将来の活動に向けて、海外企業や交流協定校を中心とした教育機関と連絡を定期的に行っている。協定校への交換留学生1名の派遣や海外研修旅行では新たに2学科が実施した。各学科が行う研修および、本校が計画する海外派遣プログラムにより令和7年度は242名が国外へ渡航し、さらに個別の留学等では語学留学14名やサマースクール4名、学会発表5名などにより26名を派遣した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外協定校と協議しながら、対面型国際ワークショップとして高専グローバルキャンプ(学生参加者61名)などを実施し、オンラインでの学生交流も実施した。</li> </ul>
48	<p>④ 国立高等専門学校のオンキャンパス国際化に資する外国人留学生の確保に向けた取り組みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外渡航の安全状況に注視しつつ、安全に海外留学や海外研修ができるよう、また、将来の活動に向けて、海外企業や交流協定校を中心とした教育機関と連絡を取り合い、協定校への交換留学や研修や海外インターンシップの準備を進めていく。</li> <li>海外協定校と協議しながら、対面型国際ワークショップやオンラインでの学生交流を計画実施する。</li> </ul> <p>【再掲】(番号11) ・タイ高専から受入中の学生指導体制を整え、適切に学生指導を推進していく。</p>	<p>④ 国立高等専門学校のオンキャンパス国際化に資する外国人留学生の確保に向けた取り組みとして、JASSOへの申請を毎年継続して行っており、今年度もタイプAに採択されており、次年度向けにも申請を行い協定(受入)枠として19名、さらに協定(派遣)枠として5名のプログラムが採択された。</p> <p>【再掲】(番号11) ・海外渡航の安全状況に注視しつつ、安全に海外留学や海外研修ができるよう、また、将来の活動に向けて、海外企業や交流協定校を中心とした教育機関と連絡を定期的に行っている。協定校への交換留学生1名の派遣や海外研修旅行では新たに2学科が実施した。各学科が行う研修および、本校が計画する海外派遣プログラムにより令和7年度は242名が国外へ渡航し、さらに個別の留学等では語学留学14名やサマースクール4名、学会発表5名などにより26名を派遣した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外協定校と協議しながら、対面型国際ワークショップとして高専グローバルキャンプ(学生参加者61名)などを実施し、オンラインでの学生交流も実施した。</li> </ul>
49	<p>⑤ ・外国人留学生の学業成績や資格外活動の状況等の把握や適切な指導等に取り組む。</p>	<p>⑤ 外国人留学生について、学業成績の状況を把握し、外国語(英語)の能力を考慮して単位認定するなど適切な学生指導を行っている。</p>
	2. 業務運営の効率化に関する事項	2. 業務運営の効率化に関する事項
50	<p>2. 1 一般管理費等の効率化 ・必要な業務の優先順位を考慮し、一般管理費の効率的な運用を行う。</p>	<p>2. 1 一般管理費等の効率化 ・業務の優先順位を考慮し、運営交付金の枠内で一般管理費の効率的な運用に努めた。</p>
51	<p>2. 2 給与水準の適正化 ・教員の給与水準について、適正化に取り組む。</p>	<p>2. 2 給与水準の適正化 教員の給与水準について、機構の規則に従い適正化に努めた。</p>

番号	熊本高等専門学校令和7年度 年度計画	令和7年度計画実績
52	<p>2. 3 契約の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・契約にあたっては、他高専で実施された監事監査の指摘事項等を踏まえ、随意契約の適正化を推進するとともに、一般競争契約への見直しを推進する。</li> <li>・さらに、引き続き機構通知等に基づき学内（内部）監査等を実施する。</li> <li>・また、両キャンパスにおける調達等の合理化、効率化についても引き続き検討し、可能なものから着実に実施する。</li> </ul>	<p>2. 3 契約の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・随意契約の適正性の確保として、競争性のない随意契約については、全て機構本部への確認を経て行っている。</li> <li>・公的研究費にかかる学内監査を10月22日、30日に実施し、高専相互会計内部監査（熊本→佐世保）を12月16日に実施し、物件費等にかかる契約の適正性等を確認した。</li> <li>・通常は各キャンパスにおいて実施する「LEDへの改修工事契約（入札）」について、両キャンパス分を一括して実施した。また、これまで各キャンパスで実施していた学生寮・学生寮食堂及び教職員食堂の「防虫・防鼠作業委託契約」について一括して行うことにより、調達等の合理化・効率化をはかった。</li> </ul>
53	<p>2. 4 情報通信技術を活用した業務の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル・トランスフォーメーションを活用し、教育や事務等各種業務の効率化を推進する。</li> </ul>	<p>2. 4 情報通信技術を活用した業務の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DXネットワークプロジェクトグループと共同で教職員へのExcelの使い方について合同研修会を開催した（11/21, 12/1）。</li> <li>・NIIが開催している大学等におけるオンライン教育とデジタル変革に関するサイバーシンポジウムの案内を随時行った。</li> <li>・高専高度化推進事業に採択され、出席確認に係る6高専連携の調整を行い出席のDX化のためのシステム調達を行った。両キャンパスで学生の出席登録、成績通知等を行い、省力化を行った。</li> </ul>
	5. 財務内容の改善に関する事項	5. 財務内容の改善に関する事項
54	<p>3. 予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画</p> <p>3. 1 戦略的な予算執行・適切な予算管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機構本部令和7年度計画及び機構本部予算編成方針を受け、年度当初に本校の予算編成方針を策定し、校長裁量経費による戦略的な予算配分を行い、一般管理費、その他の業務の効率化を図る。</li> <li>・また、一般管理費の削減を図るため、学内委員会等と連携して光熱費、通信費等の削減の取り組みを実施する。</li> </ul>	<p>3. 予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画</p> <p>3. 1 戦略的な予算執行・適切な予算管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年4月に財務企画会議を発足させ、戦略的な予算執行・適切な予算管理のために、物件費・人件費（非常勤人件費）・光熱費の高騰対応策等、財務上の検討課題について検討を行った。</li> <li>・また、環境施設委員会を開催し、省エネルギー及び節電の取組の推進について、夏季は熊本C5/28、八代C6/3、冬季は熊本C12/8、八代C12/9に検討を行い、本校の全教職員・学生に向けて協力を依頼し、光熱費が、昨年度比で約630万円の削減となった。</li> </ul>

番号	熊本高等専門学校令和7年度 年度計画	令和7年度計画実績
55	<p>3. 2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会連携活動の推進等を通じ、共同研究、受託研究等を促進し、外部資金の獲得の増加を図る。</li> <li>・また、卒業生が就職した企業、同窓会等との交流を図り、より効果的な寄附金の獲得につながる取組を推進する。</li> </ul>	<p>3. 2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員会議やTeamsにより、「国立高専研究情報ポータル」高専機構 産学連携サイトの外部資金情報の情報提供を行っている。令和7年7月14日には、科研費動画コンテンツを活用した科研費申請に係る学内講習会を実施した。「科研費獲得ウェビナーfor2026」参加支援、機構本部からの情報を周知した。</li> <li>・熊本高専地域連携振興会「研究開発推進事業」の公募が行われ、2件の事業が認められた。</li> <li>・外部資金の導入を進めており、令和7年9月に、ネーミングライツ事業（第1号）として、三井三池製作所とパートナー契約を締結した。また、令和8年3月には、応用電機株式会社、ルネサスエレクトロニクス株式会社2社とネーミングライツ事業パートナー契約を締結した。</li> <li>・令和7年11月には、八代市のふるさと納税（八代市次世代創業者等育成事業）に採択され、1,468,800円のご寄附をいただいた。</li> <li>・本校における全学的な教育研究活動への継続的な支援を目的とするため、今年度から新たに「くまもとKOSEN未来基金」を設立し、3月から運用を開始した。</li> </ul>
	7. その他主務省令で定める業務運営に関する事項	7. その他主務省令で定める業務運営に関する事項
56	<p>7. 1 施設及び設備に関する計画</p> <p>①-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の機能の高度化や老朽施設の改善などの整備を推進し、施設マネジメントを進める。</li> </ul>	<p>7. 1 施設及び設備に関する計画</p> <p>①-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高専高度化経費を活用した学内DX化を進めている。また、計画的に学寮の改修を行っている。</li> </ul>
57	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例年実施しているAED講習、防災訓練（学寮を含む）等を実施する。</li> </ul>	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員・学生対象のAED講習および全学的な防災避難訓練（学寮を含む）を実施している。</li> </ul>
58	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在校生に対して、アントレプレナーシップ教育の一環として整備した設備など、学内の様々な施設・設備の有効活用を進め、適切に維持管理運営を行っていく。</li> <li>・これらの設備を用いた教育実績を含め、学校の魅力を中学生や保護者に対して、学校説明会・オープンキャンパス等を通じ積極的に発信していく。</li> </ul>	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アントレプレナーシップ教育の一環として整備した施設を活用してKOSEN Glosbal Camp（8月）を実施した。また、オープンキャンパスにおいて中学生・保護者に対して紹介した。</li> </ul>
59	<p>7. 2 人事に関する計画</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課外活動では外部コーチの登用、学寮では外部人材の活用を進める。</li> </ul>	<p>7. 2 人事に関する計画</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課外活動において積極的に外部コーチを活用した。また、学寮では寮母的な役割の外部人材を継続して雇用している。</li> </ul>
60	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の特色形成、高度化のための教員の戦略的配置を目的として、教員人員枠の再配分を進める。</li> </ul>	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度より学内組織改編を行い。情報教育セキュリティセンターを設置し、教員配置を実施している。</li> </ul>
61	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手教員確保のため、教員人員枠の弾力化を進める。</li> </ul>	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員人員枠を総合的に考慮しつつ、若手教員確保のため公募を実施している。</li> </ul>

番号	熊本高等専門学校令和7年度 年度計画	令和7年度計画実績
62	④-1 【再掲】(番号16) ・専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者(2年以内に学位取得見込の者も含む)とすることを原則とする。	④-1 【再掲】(番号16) ・令和7年度に実施している公募において、博士の学位を有する者(2年以内に学位取得見込の者も含む)とすることを原則としている。
63	④-2 ・企業や大学等とのクロスアポイントメント制度活用を進める。	④-2 ・九州大学等とのクロスアポイントメント制度を継続的に活用している。
64	④-3 ・機構の計画する多様な人事交流の取組を、個人の事情にも配慮しつつ活用を進める。	④-3 ・同居支援プログラムを活用した人事交流を実施している。
65	④-4 ・一般科目および専門科目において、外国人教員登用を進める。	④-4 ・一般科目の英語及び専門科目の技術英語等で外国人教員(非常勤講師)の登用を行っている。
66	④-5 ・男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発のための研修会等の実施を検討する。	④-5 ・男女共同参画やダイバーシティに関する研修会等について情報共有を行い、参加を勧めている。
67	⑤ ・機構が計画する個人の事情に配慮した「同居支援プログラム」等の人事交流プログラムを活用して、教職員の人事交流を促進し、多様な人材の育成を図る。	⑤ ・機構が計画する「教員の同居支援プログラム」について、本校教員から応募希望があり、制度活用に向けた対応を行った。受入れ高専とのマッチングには至らなかったものの、本制度の利用を希望する教員が確認され、人事交流促進に資する制度としての活用可能性が確認された。
68	(2) 人員に関する指標 ・学内外で実施される各種研修等への参加を促す。  ・長期的には若年のうちに総務・財務・学生のすべての系を経験できるように配属し、広い視野をもった職員の育成、及び職務能力の向上を目指す。  ・また、現在職務に使用しているMicrosoft365等の各種ツールをより効率的に活かせるよう、SD研修等の実施により、教職員のスキルアップを目指す。	(2) 人員に関する指標 ・学内外で開催される各種研修について案内し、教職員が11種(対面形式のみカウント)の研修に参加した。  ・他機関への出向も含め、人事異動に際しては総務・財務・学生のすべての系を経験できるよう配慮し、実際に課を跨いだ人事異動が実施された。  ・11月と12月に1回ずつ教職員を対象としたSD研修会を開催した。実際に学内で使用されている様子を基に、よりデータを活用するための改善案を検討する実践的なグループワークを中心に実施し、職員のスキルアップにつながった。
69	7.3 情報セキュリティについて ① ・高専全体で利用する情報システムの仕様変更や操作方法の変更に対応する。  ・本校独自に設置して運用している情報システムについて適宜点検と見直しを行う。	7.3 情報セキュリティについて ① ・次期「高専統一ネットワークシステム」に向けた準備として、仕様変更に伴うネットワーク再設計、作業日の調整を行った。  ・マルウェア対策ソフトの新しい環境に対応する作業を行った。  ・新しいプロトコルQUICに関連して校内LANの通信障害に対応した。

番号	熊本高等専門学校令和7年度 年度計画	令和7年度計画実績
70	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機構の情報担当者向けの情報セキュリティに関する各研修に対して積極的に参加する。</li> </ul>	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・K-SECによるNECセキュリティエンジニアとの情報交換会に参加した。</li> <li>・情報戦略本部連絡会に参加した。</li> <li>・K-SECの研修会(3/24-26)について案内し、教員の参加があった。</li> </ul>
71	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CISO及び情報戦略推進本部情報セキュリティ部門からの連絡に従い、情報セキュリティ対策を実施する。</li> <li>・令和6年度に受けた情報セキュリティ監査結果を点検し、指摘事項に対応する。</li> </ul>	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度情報セキュリティ監査チェックシート提出6/30。サーバ室の不用品撤去などの対応が終了した。</li> </ul>
72	<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機構が実施する情報セキュリティに関する各研修や訓練に対して積極的に参加する。</li> <li>・情報セキュリティに関連する各研修について教職員に紹介する。</li> </ul>	<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的サイバー防御演習「CYDER」について案内をした(6/2)。</li> <li>・情報セキュリティトップセミナーに参加した(8/5)。</li> <li>・情報セキュリティe-Learningについて案内をした(8/20)。</li> <li>・サイバーセキュリティNECセキュリティエンジニアとの情報交換会について案内をした(10/8)。</li> <li>・情報セキュリティインシデント対応訓練に対応した。</li> <li>・UPKIの証明書発行方法変更に係る説明会に参加した(11/21)。</li> <li>・K-SECの研修会(3/24-26)について案内し、教員の参加があった。</li> </ul>
73	<p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CISO及び情報戦略推進本部情報セキュリティ部門からの連絡に従い、情報セキュリティ対策を実施する。</li> </ul>	<p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休暇前の情報セキュリティ対策について周知した(8/6)。</li> <li>・Axioleのファームウェアアップデートを実施した(夏)。</li> <li>・両キャンパスともFWファームウェアのアップデートを行い、所定の状態に設定した。</li> </ul>
74	<p>⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報セキュリティインシデント予防及び被害拡大を防ぐための啓発、教職員・学生に対して随時情報提供や注意喚起を行う。</li> </ul>	<p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休暇前の情報セキュリティ対策について周知した(8/6)。</li> <li>・Axioleのファームウェアアップデートを実施した(夏)。</li> <li>・両キャンパスともFWファームウェアのアップデートを行い、所定の状態に設定した。</li> </ul>
75	<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種規程・ガイドライン・マニュアル等について、法人全体の共通課題を踏まえ、必要に応じ見直しを行う。</li> <li>・また、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」及び「公的研究費等不正防止計画」に基づく取組の実施、また、必要に応じ適切に取組内容を見直す。</li> </ul>	<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急対策マニュアルについて、災害時対応および学生等の負傷時等での対応について改訂を行った。また、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」及び「公的研究費等不正防止計画」に基づく教員への確認等を実施した。</li> </ul>
76	<p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、本校の個別の年度計画を定める。その際、必要に応じて本校の各学科の特性に応じた具体的な成果指標を設定する。</li> </ul>	<p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和8年度からの学科改組等の取組において、各学科の特性・特徴を改めて検討した。</li> </ul>